

## 働きすぎないように頑張れ？



副院長  
山内 淳

いよいよ平成30年度がスタートしました。来年の5月からは新しい元号となりますので、1年間通して平成である最後の年度ということになります。今年度は医療に関連して適切かつ速やかな対応を求められる課題が、例年以上に山積しているように思います。

まず重要なのが、診療報酬改定への対策です。予想通り病院にとっては厳しい改定となりましたが、当院は3年後の2021年に迫った新病院竣工を控えて、経営状況をできるだけ良い方向に持っていくことが求められています。そのためこれまでも新入院患者、特に救急患者や手術・処置を必要とする患者さんを多く受け入れていく方向で、職員一同努力を続けてきました。今回の改定如何にかかわらず、その方針は変わらないと考えています。

ところがここで大きな問題となってきたのが、長時間労働に対する対応です。医師の過労自殺問題や、病院への労働基準監督署の立ち入り調査を機に、医師の働き方を見直そうという動きが急速に高まってきました。大学病院や一部の基幹病院での実態が、毎週のようにマスクミに取り上げられている状況です。当院においても速やかな対応が求められており、機構本部と

もに有効な対策を検討しているところです。しかしこれは多くの急性期病院に共通の問題であり、決して一部の病院がやり玉に挙げられるような筋合いのものではありません。厚生労働省においても“医師の働き方改革に関する検討会”が昨年の夏に組織され、本年1月にはタスク・シフティング（業務の移管）などを骨子とする中間報告がなされています。当院においても2月1日より、緊急の場合を除き、病状説明等の対応は原則的に平日の勤務時間内に行う方針といたしました。また、医師法の応召義務についても今後議論される方向とのことです。まだまだ道半ばではありますが、できることから取り組みを進めてまいりたいと思います。

そしてもう一つ大切なことは、4月からいよいよ新専門医制度がスタートすることです。1年間延期されましたが、多くの問題点が解決されず残されたままで、とりあえず始めてみようということになった印象です。大阪労災病院として募集した内科系について、今年度は合計7名の専攻医の方が来られることになりました。今後の成否はその研修内容にかかってくることとなりますので、これからも若い医師に選ばれるような教育・指導体制を整備していく必要があると痛感しています。

このように種々の難題を抱えていますが、当院は大学および地域の医療機関の皆様と密接に連携しつつ、しっかりと諸問題に取り組んで参りたいと思いますので、今後とも温かいご支援ご指導のほど何卒よろしくお願いいたします。

## 診療科紹介 脳神経外科

副院長 山本 和己



大阪労災病院脳神経外科は現在専門医3名（そのうち指導医2名）専攻医1名の4人体制で診療にあたっています。新臨床研修医制度が開始された時にはスタッフ2名の時もありました。現在でも必ずしも十分とは言えませんが「医師の働き方改革」を考えながらもご紹介いただく患者さん、救急患者さんに誠実で質の高い医療を提供できるように日々努力しています。

当科では脳血管障害、脳、脊髄腫瘍、頭部外傷、三叉神経痛や片側顔面けいれんに対する微小血管減圧術など一般脳神経外科疾患を幅広く診療しています。顔面けいれんや両側眼瞼けいれんに対してはボトックス治療も行っています。

平成29年度の総手術件数は150例、脳、脊髄腫瘍が39例、脳動脈瘤直達手術が10例、頸動脈血栓内膜切除術が3例、頸動脈ステント留置術が8例、脳動脈瘤コイル塞栓術が6例、経皮的脳血栓回収術が8例でした。

脳血管障害は高血圧卒中内科と密接に連携しています。脳卒中オンコール体制をしき急性期脳血管障害に対応しています。発症4.5時間以内の急性期脳梗塞の患者さんにはt-PA治療が24時間可能です。また発症8時間以内の急性期脳梗塞に対しては脳神経血管内治療学会専門医が経皮的脳血栓回収術を24時間対応しています。頸部頸動脈狭窄症では治療適応を十分に検討し血栓内膜切除術またはステント留置術を行っています。血栓内膜切除術では全例に内シャントを使用し血流遮断時間を短くし、再狭窄が起きないように

シールドパッチを行っています。

脳梗塞や一過性脳虚血発作の患者様をご紹介いただく場合、高血圧卒中内科にお願いいたします。高血圧卒中内科で精査をおこないバイパス手術等の外科的治療必要な場合、脳神経外科に紹介していただいています

昨年12月には最新のカールツアイス製マイクロスコープ、Robotic Visualization Systemを備えた KINEBO 900を導入しました。まだ十分にその機能を使いこなせていませんが、脳動脈瘤手術などでの術中ICG血管造影、悪性神経膠腫摘出にアラベルによる腫瘍の可視化ができ治療成績の向上に役立っています。またこの顕微鏡は明るく、高倍率、高精度な画像を見ながらの体外視鏡（exoscope）手術が可能です。将来的には血管バイパス術等に応用しようと考えています。

当院では昨年4月よりハイブリッド手術室が稼働を開始しました。

当科でも脳動脈瘤や、頸動脈狭窄症に対する血管内治療に活用しています。

また手術用ナビゲーションとも併用し脳下垂体手術や脳腫瘍手術に役立っています。

平成33年に新病院が完成する予定です。現在は古い建物ではありますが日進月歩の医療の世界で、医療の質、先端医療を提供し医療安全にも努めてまいります。今後ともよろしくお願いたします。

### 基本理念

誠実で質の高い医療を行い  
すべての方々から選ばれる病院に

### 基本方針

1. 地域と連携し地域に信頼される急性期医療を行います
2. 高度で安全な医療に全力をあげてとりくみます
3. 患者さまの立場と権利を尊重する医療に努めます
4. 勤労者医療を担ってこれを推進します
5. 働きがいのある職場づくりを推進します

## 職場紹介 栄養管理部

管理栄養士 西條 豪



当栄養管理部は平成28年度より、大きく部門業務改革を実施しました。目指すべき方向性は“治療に即し、理論と根拠に基づいた栄養管理の実践”とし、業務を本格的に対患者栄養管理へとシフトさせました。

この背景には、人口構造の変化と診療報酬が関わっております。

超高齢社会は、同時に様々な疾患や障害を抱えたまま、生活をしている高齢者の増加を意味します。元々リスクを抱えた上で、さらなる状態の悪化を伴い入院してくる患者さんの多くは、入院の時点で栄養学的リスクを多数抱えた状態です。

栄養学的リスクを保持することは、免疫力の低下、創傷治癒遅延を招き、投薬や処置、手術という基本的な治療行為の効果を妨げる事になり、通常通りの治療を行っていても奏効しないという現象を引き起こします。

したがって、現在の医療においては、治療と並行した早期栄養介入・改善は、必須の存在であると考えられます。

また診療報酬制度においても、栄養管理実施加算、栄養サポートチーム加算、栄養指導対象の拡大や点数の増額等、臨床における栄養管理業務の評価がなされるようになりました。

これらの社会背景を踏まえると、元々厨房や栄養管理室内で主に献立や食材という“モノ”の管理を主体的に行っていた管理栄養士業務を、患者さ

んという“ヒト”を対象とする業務にシフトさせ、患者栄養管理業務を充実させることは急務であり、必務であると考えられました。

業務改善の結果、平成29年度、管理栄養士による入院患者への栄養管理は、栄養指導による売り上げは全国労災病院で1位(平成29年11月現在)、患者さんへの栄養介入件数は約35000件(2年前の約7倍)、食事提供率は2%程度の増加(年間1万食以上増加)と飛躍的に充実してきております。

マンパワー不足の状態ではありますが、今後は現在の方向性をさらに強化していき、患者、医療、経営において必要とされる職種でありたいと考えております。

栄養管理に関して何かお困りの際は、いつでも管理栄養士に相談していただければと思います。



皆様の提案を取り入れるための「**提案箱**」を設置しています。

積極的・建設的なご提案をお願い申し上げます。

ご提案先:総務課

提出方法:①投書の場合

総務課入口に設置してある「こうしたらどうや提案箱」まで

②郵送の場合 住所:〒591-8025 堺市北区長曾根町1179番地の3

大阪労災病院 総務課 あて

③メールの場合 E-mail:soumukatyou@osakah.johas.go.jpまで



## トピックス 病院建て替えの現状について

用度課長 江藤 高秀



日頃から当院の運営にご理解ご協力いただきありがとうございます。

今回は現在計画中の新病院についてお知らせいたします。

当院の新病院建設は既存建物を利用しながら工事を行う必要があるため、現敷地の東側に建物を配置する計画となっております。

そのため、建設用地を確保する必要から、「近畿中央胸部疾患センター」の隣接地に、「大阪労災看護専門学校」及び「職員宿舎（シャイン金岡）」を建設し、既に移転が完了しております。

現在の病院は築50年以上が経過している建物もあり、雨天時には随所で雨漏りが発生したり、冷暖房設備が機能不十分なため快適な療養環境を提供できないなど、ご来院の皆様にご迷惑やご不快な思いをおかけしております。

また、建物全体が横に広がっているため、患者さんが各部門で診療や検査を受けられる際には移動距離が長くなっており、また目的部署がわかりにくいなどの問題も抱えております。

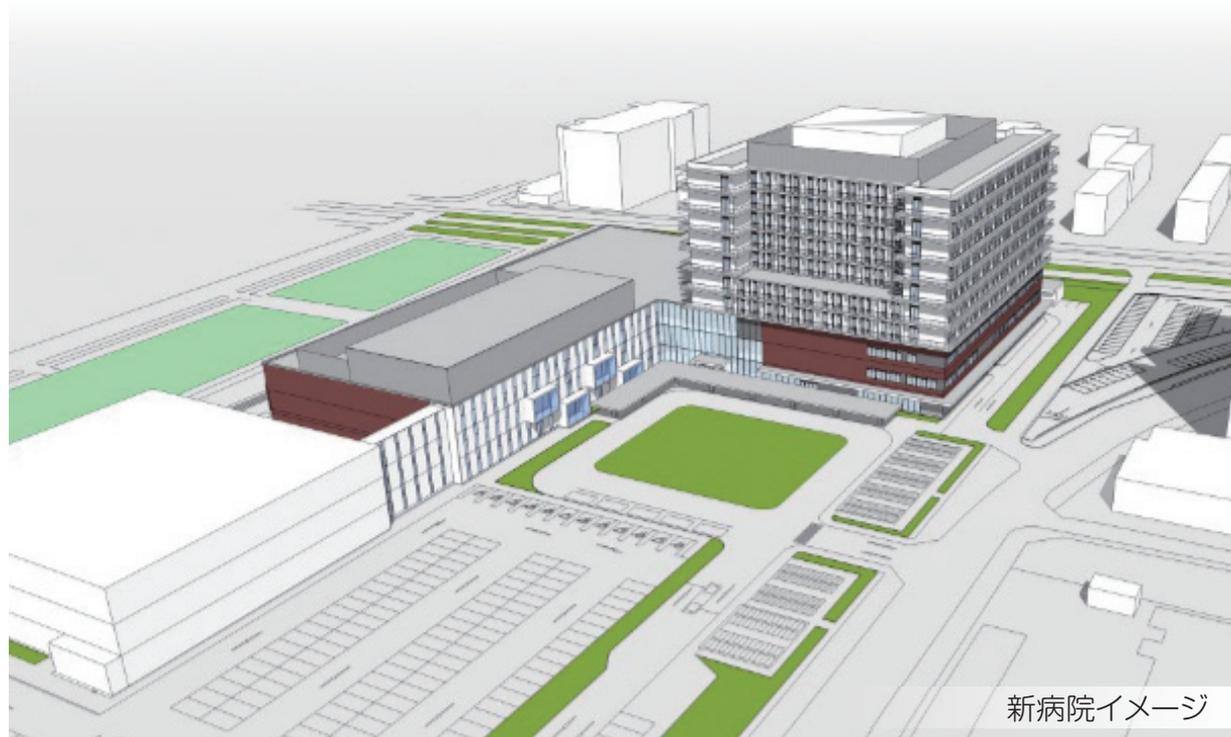
建物外では、慢性的な駐車場不足による駐車場進入待ち時間があり、そのための南側道路に交通渋滞が発生し公共交通機関へもご迷惑もお

かけております。

新病院では診療機能の拡充（手術室：13室→16室、内視鏡ブース：5ブース→7ブース、外来化学療法室：20ブース→31ブースなど）を図り、建物は10階建の高層棟（仮称）と4階建の低層棟（仮称）及び既存リハビリ棟を部分改修した3棟に集約することで、患者導線がシンプルになり、各部署の所在がわかりやすい病院になることを目指しております。

外構工事では駐車場や駐輪場を拡充するとともに、路線バスの敷地内への誘導も検討しており実現すればより利用いただきやすくなるものと考えております。

現時点での新病院の竣工は、平成33年11月頃を予定しており、それまでの工事段階では騒音や大型工事車両の市道出入り、また駐車場の段階的な変更等でご迷惑をおかけすることとなりますが、工事開始前には住民説明会を開催し、ご意見をいただいたうえで安全を最優先し工事を進めてまいりますのでご理解とご協力をお願い申し上げます。



新病院イメージ

イベント紹介 大阪労災病院看護週間行事

看護協会テーマ：看護の心をみんなの心に  
 大阪労災病院テーマ：ひろげよう看護の輪

内 容	5月9日(水)	5月10日(木)	5月11日(金)
パネル展示 (各外来・薬局前)	リンパ浮腫看護外来のケアの実際を紹介 創傷皮膚排泄ケア看護師による早期治癒に向けた創傷処置方法 再発を予防するための心不全看護外来の紹介 助産師外来・母性外来などの紹介や4D外来の写真とお土産アルバムなどの展示		
相談コーナー	看護師とソーシャルワーカーによる出張がん相談・就労相談 (9時～16時)		
体験コーナー		<b>【フットケア外来】</b> 血流測定検査、その他 フットケアに関する グッズの展示  場所:外来中庭 時間:9:30～11:00	<b>【産婦人科専門外来】</b> コーケンベビーによる 抱っこ体験や妊婦体験 女性のための骨盤ケア  場所:管理棟2階会議室1 時間:13:30～16:00
市民公開講座		<b>【市民公開講座】</b> 「認知症にならないため の日常生活の工夫」  講師:平山みどり 場所:管理棟3階大ホール 時間:11:00～12:00	
記念行事	ナイチンゲール生誕祭 (入院中の患者様に記念品をお配りします)		

平成29年度優秀な研究等に対する表彰

平成29年度優秀な研究等に対する表彰で、当院の循環器内科医師：森直己氏（平成30年3月31日退職）が「長い冠動脈病変に対する第二世代DESの有効性 long single stentとoverlapping double stentの比較検討」で表彰されました。表彰式は平成29年10月18日（水）に行われ、労働者健康安全機構理事長より表彰状等が授与されました。



## ～患者様、ご家族の方、地域住民の皆様向け～ 大阪労災病院市民公開講座

開催日	時間	所属	講師	演題	内容
平成30年 5月10日(木)	11:00～ 12:00	看護部	平山 みどり	認知症にならないための 日常生活の工夫	日本では超高齢化が進んでおり、認知症の方の数も増加しています。現在の医学では進行を遅らせることはできても完治できないのが現状です。そこで、認知症の予防に効果があるといわれている日常生活の工夫についてお話します。
平成30年 7月26日(木)	11:00～ 12:00	消化器内科	末吉 由佳	胃がんのお話	胃がんは進行すると、出血したり、胃ががんでつまってしまい食事が取れなくなることがあります。胃がんをできる限り早めに見つけるために、胃がん検診、ピロリ菌との関連を含めてお話します。
平成30年 9月10日(月)	11:00～ 12:00	内分泌 代謝内科	久保田 昌詞	禁煙外来へのお誘い	タバコはがんや心臓病、脳卒中、肺の病気など多くの病気を引き起こします。喫煙者は一日でも早く禁煙することが望まれます。禁煙外来ではニコチンパッチや内服薬で禁煙のサポートをいたします。禁煙に関心のある方の御参加をお待ちいたします。
平成30年 11月27日(火)	11:00～ 12:00	中央リハビリ テーション部	赤尾 典子	安全に食べるために… オーラルフレイルの話	「嚥む」「飲み込む」「話す」など、口の機能の衰えを「オーラルフレイル」と言います。加齢の影響で口の機能が落ちてくると、食事が減り、低栄養や筋力の低下、ひいては要介護状態になり易くなります。また、窒息事故や誤嚥性肺炎にもつながりかねません。今回はオーラルフレイルとその予防についてお話します。
平成31年 1月16日(水)	11:00～ 12:00	整形外科	金城 聖一	ロコモティブシンドローム ～関節リウマチのお話～	ロコモティブシンドロームとは「運動器の障害」により「要介護になる」リスクの高い状態になることです。「運動器の障害」の原因のひとつに関節リウマチがあります。関節リウマチは原因不明の病気で、免疫の異常により関節を包む滑膜に炎症が起こり、それが増殖して骨や軟骨を破壊します。放置すると関節が破壊され、日常生活に支障をきたすこともあります。近年、骨及び軟骨の破壊を積極的におさえる薬としてメトトレキサート、さらに強力におさえることが可能な生物学的製剤が導入され、治療の目的が寛解を目指せるようになりました。関節リウマチは、これまで不治の病とされてきましたが、新たな治療法が開発されたことにより、完全寛解も夢ではなくなりました。本講演では関節リウマチについてわかりやすく解説し、治療法についてお話します。
平成31年 3月7日(木)	11:00～ 12:00	泌尿器科	任 幹夫	緩和ケアのお話	“緩和ケア”という言葉を知って皆さんはどのようなことを想像しますか?「がん治療ができなくなった方への医療」「がんの終末期に受けるもの」で、治療段階ではまだまだ早いと思っている方も多いようです。“緩和ケア”とは、がんと診断された時から、治療と一緒に受けるケアです。緩和ケアを受けることで、「こんなにいいことがあります」ということをお話します。

## 平成29年度患者満足度調査の結果を受けて

平成29年9月～10月に実施いたしました「患者満足度調査」について、当院では84.3%の満足度を得ることができました。

今回の結果を受け、患者サービス向上委員会では、「診察室・病室等環境面」について、新病院建設に向けて、より良い療養環境を整えられるよう検討しております。

患者さんに対するプライバシーの配慮について、現在、当院では患者さんからのご意見を集めるために投書箱を設置しておりますが、以前、「入院説明や治療説明を行う際に他の患者さんの前で大声で説明することは配慮に欠ける」というご意見をいただきました。このご意見を受けて、入院や治療に関する説明を行う際には、空き室となっている診察室や他の患者さんから離れた待合スペースを利用し、声の大きさにも配慮するよう努めてまいりました。また、患者さんの立場に立った対応を心掛けるよう再度周知徹底いたしました。

次に、待合室の設備や雰囲気について、当院では、患者さんからの寄贈本を受け付けており、待合スペースに設置をしております。絵本や雑誌、小説など様々なジャンルを取り揃え、現在は3箇所の待

合スペースに設置しております。また、閲覧コーナーの近くには自動販売機を併設し、診察までの待ち時間や検査結果が出るまでの待ち時間を患者さんが不自由なく過ごせるように心掛けております。

患者満足度調査を通して得られたご意見を参考に、今後もより良い療養環境を整えるよう全職員が一丸となって努めてまいります。



### 編集後記

いよいよ旧宿舎、立体駐車場の解体工事が始まります。新病院建設に向けて本格的な一歩が踏み出されました。平行して実施設計プロジェクトも進行しています。ここが踏ん張りどころ!皆の夢を詰め込んだ病院となるよう議論を深めていきましょう。

S.N

管理職 新人紹介 〈平成30年4月1日付〉



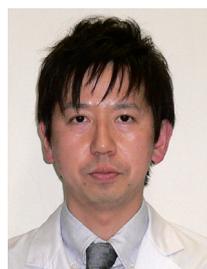
消化器内科副部長 松本 健吾

専門分野：消化器内科

出身大学：大阪大学 (H16年卒)

平松副院長のもと、消化器領域の悪性疾患に対する診断、治療を中心として消化器疾患全般において、大阪府南部の地域医療発展に貢献できるよう頑張ります。よろしくお願いします。

頑張ります。よろしくお願いします。



小児科副部長 岡本 直之

専門分野：小児心身症

出身大学：大阪医科大学医学部 (H14年卒)

この度 小児科副部長を拝命いたしました岡本直之です。私は小児心身症を専門として診察させていただいております。今後は管理職としても尽力する所存ですのでよろしくお願いいたします。

よろしくお願いいたします。



外科副部長 鄭 充善

専門分野：消化器内科

出身大学：名古屋市立大学(H13年卒)

大腸癌に対する腹腔鏡手術（特に単孔式内視鏡手術）を専門としております。大阪労災病院においても、より低侵襲な手術を提供できるように頑張りたいと思っております。宜しくお願いします。

思っております。宜しくお願いします。



薬剤部長 浅井 茂夫

関東労災病院より参りました。浜松、横浜、和歌山を経て5施設目の異動です。大阪労災のお力になれますように小さな事からコツコツと進めてまいります。よろしくお願いいたします。



中央リハ部長 谷本 武晴

和歌山労災病院から赴任してきました谷本です。趣味はランニングとスキーです。運動しないと頭が働かないタイプなのかもしれません。何かありましたらいつでもご連絡ください。



事務局長 小向 孝広

大阪は7年ぶりの勤務となります。以前の勤務経験も生かしつつ努力して参りますので、どうぞご指導ご鞭撻賜りますようよろしくお願いいたします。



総務課長 青木 修

総務課長として着任しました青木です。前施設仙台（東北労災）から、こちらで6施設目になります。

皆さんと一緒に引き続き活気ある大労となるよう努めてまいります。よろしくお願いいたします。



会計課長 岡 由佳

平成9年に入職後、岡山・愛媛・関西・九州・本部と異動し、この度大阪労災病院に赴任いたしました。新病院建設が始まる大阪労災病院で精一杯頑張りますのでよろしくお願いいたします。



外科副部長 宮垣 博道

専門分野：胃食道外科

出身大学：大阪大学 (H14年卒)

2018年4月に着任いたしました。胃食道外科を専門に患者さんの気持ちに寄り添いながら手術治療を中心に、化学療法や緩和ケアまで頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

思っておりますのでよろしくお願いいたします。



外科副部長 若杉 正樹

専門分野：消化器外科（肝胆膵）

出身大学：大阪大学 (H15年卒)

本年4月より外科に赴任しました若杉正樹と申します。わかりやすい説明、安全な手術をこころがけています。よろしくお願いいたします



小児科副部長 宮崎 敬士

専門分野：小児消化器肝臓病

出身大学：大阪医科大学医学部 (H14年卒)

大阪労災病院に赴任して早10年目になります。小児の栄養・消化器肝臓病を専門としています。堺市の小児地域医療や当院臨床研修医の小児科研修指導に貢献できますよう尽力いたします。

よう尽力いたします。